

## アコンカグアを見たい

JICA シニア海外ボランティア  
平成23年度2次隊 ASIMET 配属  
冶金・金属機械産業協会（サンチャゴ）  
榊原 和彦

2011年10月に10年ぶりのサンチャゴに到着、高いビルが林立、建設ラッシュ、車が新しくなっている。2,3日生活してみると此処はラテンではない。そんな感じに捕われた。地下鉄に乗ったら料金が3倍近くに跳ね上がっている。「随分発展したもんだ」そんな気分させられた。

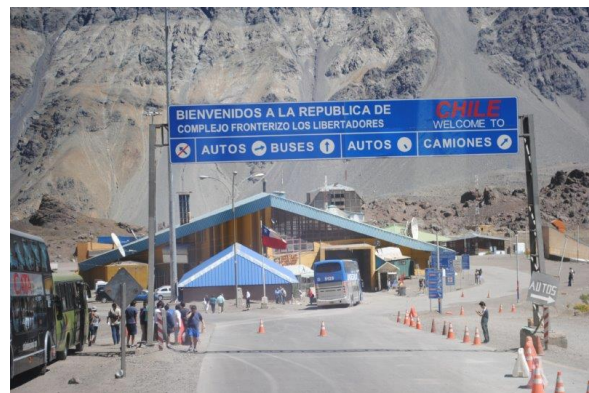
10年前2年間アルゼンチン生活、チリ赴任前ペルーで1年近く、その他ラテンの国ではメキシコでも仕事をしていた。ここはそれらとも違う。ラテンではない。アジアでの3カ国生活〔中国・タイ・ベトナム〕とは異質であるとは認識していたがチリはラテンではない。

同じ事を何度も口にした事を思い出した。アンデス山脈がそれらを隔てているのだろうか。改めてアルゼンチン・ペルーを見てみたい気持ちで一杯になった。国境の壁にあたるアンデス山脈の頂点アンデスの頂きアコンカグア 6,960M も見たくなり、チリでの行動計画のひとつになった。

アンデス国境越え サンチャゴ〈チリ〉からメンドーサ〈アルゼンチン〉



南米最高峰アコンカグア(6,960M)



チリ・アルゼンチン国境検問所

2013年2月、日々の活動の合間をぬって、チリのサンチャゴからアルゼンチンのメンドーサを目指す旅に出た。途中南米最高峰アコンカグアの麓を通る国境越えの旅である。アルゼンチン入りは10年ぶりである。アルゼンチンは2年間のSV時代の思い出の地である。南半球の2月は真夏。冬の時期は時々道路封鎖される厳しい道路である。現在道路工事のため片道通行でチリからは夜間通行である。夜10時頃サンチャゴ発、セミ Cama〈広いリクライニングシート・TV/トイレ付〉のベンツ製大型バスである。夜間での山越えの為景色は見えませんが曲がりくねったかなりの上り坂である。

3時間ほどで国境検問所に入る。バスを降りチリの出入国管理事務所にて出国手続き、その隣でアルゼンチンの入国手続きを行う。事務手続きは簡単である。税関審査も同じ建物内で行われる。荷物検査は厳重である。捜査犬更に荷物のX線検査、時々のカバン中身検査も行われる。降りたバスの中も検査しているようである。1時間程の後バスに乗り込みメンドーサを目指す。アルゼンチン側の道は意外となだらか下り坂となっているようだ。暗闇の中の走行ほとんど熟睡状態でメンドーサ着。

未だ闇夜の朝6時バスターミナルである。60番線くらいある大きな駅である。早速カンビオ(両替屋)の群れが近づいてくる。現在アルゼンチンは経済危機のため外貨との交換は大統領令により禁止されている。しかし外貨を求める両替屋はドルを求め殺到してくる。

10年前のアルゼンチンSV時もデフォルト後でアルゼンチン\$が3分の1に切り下げられたのを思い出した。メンドーサの街を見物、教会にはホームレスが寝ている、街の治安も悪くなっているようだ。10年前と町並みは変わっていない。チリの経済発展に比べると立ち遅れが目立つ。ワイン産地のメンドーサ、まずはワイナリーめぐり、観光地グロリアの丘をめぐり夜遅くホテルに入る。高級ホテルであるがチリのホテルの半額くらいで泊まれる。表面上ではドルは受け付けないのでカード払いとした。夜遅く名物のワインとアサード(焼肉)を求めメンドーサの夜を愉しんだ。

帰りは昼の国境越えである。朝9時発比較的なだらかな上り坂を走り国境を目指す。時々4,5軒の建物がある程度で何も無いところを走る。少しづつなだらかな上り坂に入る。徐々に荒涼たる山岳地帯に入る。車窓からはアンデスの山々の稜線が延々と続く山岳風景が見られる。その脇をかつて使われていた鉄道線路が見られる。バス乗務員にアコンカグアが見えたら教えてくれるように言っておいた。親切に教えてくれたが見えたのははるか遠く、しかも10秒程度であった。考えてみればいくら高い所を走っているといえども相手は7,000M級の山である。それでも天気も良く遠目ながら憧れの山を見た瞬間には感動を覚えた。しかし何か物足りないものを感じた。

## 再度のアコンカグア見物挑戦 2014/01/19

アコンカグア見学ツアーに参加。エスクエラ・ミリタール駅出発、参加者日本人 15 人。

前夜の大雨で道路閉鎖になっている。ツアー中止かと言う判断に迫られると言う場面に遭遇。その場の勢いか全員途中で引き返しても良いから行くとの判断が下る。サンチャゴから日帰り出来るツアーである。何時でもいけるはずであるが全員引き返さなかった。朝 8 時頃の出発となる。今まで何度も見るチャンスがあったのに、見たのはメンドーサからの帰りに 10 秒ほど遠目に見ただけである。今回も無理かと思いながらチリ側の九十九折れの急登坂の道をマイクロバスは登っていく。上り詰めたところに国境検問所があった。パスポートとチリ ID カードを見せただけで検問は終わり。その間にバスの中も調べられたようである。あっけない国境通過である。メンドーサに行った時には厳重な検査であったのに今回は拍子抜けである。パスポートの検印も無くこれが検問といった調子であった。



アコンカグア案内所



アコンカグア案内所内部

無事案内所まで到着、絶好のアコンカグア日和、道路閉鎖も解除されていた。何という幸運、案内所の人もこんな良い天候は滅多に無いとの事でした。前日の雨で更に雪を被ったアコンカグアであった。「さあ、これからアコンカグアを見に行くぞ」勢い込んだが案内所から 30 分ほどで展望台に到着。なだらかな道で「こんなんでいいのかな」という感じでアコンカグアが良く見えるところへ到着。実際には未だ 20K 先に在るらしいが身近に見える。標高 6,960M との事だが本によっては 6,962M あるいは 6,970M とまちまちである。そんな小さなことはアルゼンチンもチリも拘らないのだろう。是もラテン人らしいところだろうと勝手に想像してしまう。そういえばチリにも国土地理院があるらしいが精巧な等高線表示の地図は無いとの事である。日本なら正確な山岳地図があるのにと、つい日本との比較をしてしまう。我ながら苦笑してしまった。



南米最高峰アコンカグア(6960M)



アコンカグアと筆者

7,000M 級にしては穏やかななだらかな感じに見えるが登るのは容易では無いらしい。アンデス山脈では一番高いのは勿論、ヒマラヤ山脈を除けば一番高いとの説明を聞いた。

「山高ければ尊し」と言うことか。パタゴニアのパイネあるいはフッツロイのような険峻な山に比べればなだらかで面白味に掛けるがそれだけ大きな山と言う事だろう。長年の夢が叶えられた瞬間である。



頭上を舞うコンドル



岩に残されたアンモナイトの化石

さすがアンデス、頭上にコンドルが舞う姿を見せ、インカ帝国の末裔を思い出させてくれた。地上にはアンモナイトの化石が見られた。かつてこの地は海の底、それが今や4,000Mの高地、地球の息吹を感じさせるところである。

色んな想いを心に秘め、長年の夢を叶えてくれた時間を過ごしたアコンカグアであった。

※この記事は、カメラ会報 235 号（2014 年 8 月発行）に掲載されました。